

安心して学びあえる教育環境のための少人数学級を求める陳情

(陳情の趣旨)

新型コロナ感染拡大の収束がみえない今、「学校でも『新しい生活様式』を確保してほしい」、「様々な心身の影響を受ける子どもたち一人一人に目が行き届き、みんなが健やかに豊かに学び合えるようにしてほしい」と少人数学級を求める世論が高まっています。

全国一斉休校明けに全国各地で行われた分散登校の経験は、子どもたち、保護者、教師にとっても「20人くらいがいい」と歓迎され、コロナ禍での少人数学級を求める契機となりました。

また、政府の教育再生実行会議では、一クラス20人以下でなければ2mのソーシャルディスタンスはとれないことが明らかにされています(資料①)。さらに、OECD諸国との比較では、1学級当たりの日本の生徒数は、小学校ではOECD平均21人に対し27人、中学校はOECD平均23人に対し32人と過密であること(資料②③)、GDPに対する教育への支出の額は38か国中下から2番目の37位と、とても少ないことが指摘されます(資料④)。

これらのことから、国は予算全体を根本的に見直して、少なくともOECD平均並みの教育予算を組んで、今や国際的にスタンダードである20人学級を目指し、早急に30人以下の学級編成にすることが求められます。

教育の目的は、学力向上だけではなく、子どもたちの人格を形成することにあります。そのために国は、感染症にも安心安全な教育環境と一人一人と丁寧に関わる学びの保障を両立させることが重要です。

以上の趣旨に沿って、本陳情書を採択してください。また、下記について国に対し、意見書を提出してください。

記

1. 子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は義務教育標準法を改正し、教職員定数改善計画を立てること。

令和2年11月16日

陳情者 住所 いちき串木野市御倉町125
氏名 新日本婦人の会幸福班
木下香里